

CAS	75569
物質名	酸化プロピレン
IARC Vol. (発行年)	60 (1994年)
遺伝子傷害性に関する知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ in vitro 試験系では、細菌、真菌、酵母菌を用いた試験で遺伝子突然変異を誘発した。また、ショウジョウバエを用いた試験で優性致死を誘発した。マウス骨髄細胞を用いた試験で、小核及び染色体異常、姉妹染色分体交換を誘発した。ヒトのリンパ球を用いた試験で染色体異常、姉妹染色分体交換を誘発し、哺乳動物を用いた試験で染色体異常、姉妹染色分体交換、遺伝子突然変異、DNA 傷害を誘発した。</li> <li>・ in vivo 試験系では、ラット、マウスの優性致死試験及び、マウスの精子異常試験では陰性の結果であった。</li> <li>・ 本物質は、ヒト、イヌ、ラット及びマウスにおいて、ヘモグロピンを含むタンパク質の付加物を形成した。また、マウス、ラット、イヌの複数の器官で DNA 付加物を形成した。</li> </ul>
実験動物に関する知見	<p>評価：十分な証拠</p> <p>概要：ラットに強制経口投与した結果、扁平上皮がんを主とする前胃の腫瘍を認めた。</p> <p>マウス、ラットに吸入暴露させた結果、マウスでは鼻腔の血管腫と血管肉腫等を、ラットの雄では鼻腔の乳頭状腺腫、雌では甲状腺の腺腫とがんを認めた。</p>
ヒトに関する知見	<p>評価：不十分な証拠</p> <p>概要：ケースコントロール研究が1つあるが、本物質の発がん性について確実な結論は得られなかった。</p>
評価結果	上記のとおり、本物質は細菌を用いる試験をはじめとする複数の試験系で遺伝子傷害性が認められているため、より詳細な情報収集を行う必要があると考えられた。